

# 中長期経営ビジョン

～新たな飛躍にむけて～

2018年3月



家庭的できめ細やかなサービスを目指します。

社会福祉法人美竹会



## 第1 計画策定の目的

社会福祉法人美竹会が1997年6月20日に設立され、2017年に20周年を迎えることができました。この間、ケアハウスの開設を始め介護保険のスタートに伴い、施設整備や新規事業の参入を含め法人経営はほぼ順調に推移してきました。

しかし、今後も法人の経営理念である「私たちは良質な福祉サービスを提供し、ご利用される方の人生を支援することで社会に貢献し続けます」を実現するためには、経営基盤の安定とともに、社会のあらゆる変化に対応できるよう発展的発想や行動が必要となってきます。また社会背景として、2025年には団塊の世代の方が75歳以上高齢者、いわゆる後期高齢者となり、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、要支援・要介護認定者、認知症の方が増加することが見込まれ、新しいニーズに対応する社会福祉法人の積極的な対応が求められています。

こうしたことから、法人20年の歩みを継承し、さらに発展させることを強く認識し、利用者サービスの向上や地域福祉の推進に積極的に取り組み、社会福祉の発展に貢献していくことが極めて重要であると考えます。

そこで法人の現状と課題を分析し、今後進むべき方向を示すことを目的に、中長期的視野をもった計画を策定するものです。

## 第2 計画期間

2018年度～2027年度（10年間）



## 第3 法人の現状

### 1 法人のあゆみ

1997年	6月20日	愛知県知事認可により法人設立
1998年	4月 1日	ケアハウスみその開設
2000年	4月 1日	みその居宅介護支援事業所、みその訪問介護サービス、みその訪問入浴サービス開設
2003年	4月 1日	みその訪問介護サービス支援費事業開設
2004年	4月 1日	デイサービスみその、地域交流ホーム開設
2006年	3月16日	グループホームみその本館開設
2007年	11月15日	小規模多機能ホームみその開設
2011年	12月 1日	グループホームみその新館開設
2014年	4月 1日	みそのキッズルーム開設
2014年	4月14日	地域密着型特別養護老人ホームみその開設
2014年	5月 1日	ショートステイみその開設

## 2 職員数

【2017年4月1日現在】

所属	常勤職員	非常勤職員	合計
本部・ケアハウス	6人	4人	10人
居宅介護支援事業所	3人	0人	3人
訪問介護サービス	5人	27人	32人
訪問入浴サービス	5人	12人	17人
デイサービスセンター	9人	15人	24人
グループホーム	15人	8人	23人
小規模多機能ホーム	8人	9人	17人
特別養護老人ホーム	21人	14人	35人
ショートステイ	7人	6人	13人
キッズルーム	2人	3人	5人
栄養調理部	5人	14人	19人
合計	86人	112人	198人

## 第4 法人の特徴

### 1 介護のワンストップサービスを提供

元気な方から重篤な状態の方まで対応できる様々な施設やサービスを同一敷地内で整えており、それぞれのサービスが連携することで介護の幅広いニーズに対応できる。利用者の身体状況が変化しても慣れ親しんだ当地での生活を継続できる。

### 2 家庭的で少人数介護を実現

法人のサービスのモットー「家庭的できめ細やかなサービスを目指します」を実現すべく、利用者それぞれに個別に対応した血の通ったサービスを心がけている。この一環で家族に寄り添うかたちで介護ができるよう職員は私服で対応。また、管理栄養士を置くなど直営でおいしい食事を提供している。

### 3 人材育成システムを構築

「職員を伸ばす研修」「職員を活かす人事管理」「職員が育つ職場管理」の3本柱により人材育成システムを構築し、人材の確保と定着、育成を図っている。また65歳定年制や法人内託児所設置により安心して働くことのできる職場環境を整備している。

## 4 地域社会に根ざした施設運営

各種イベントの開催や施設利用などを通して地域に根ざした運営にこころがけており、地域との交流や連携を図っている。

## 第5 法人の課題

時代の要請に応じて様々な事業を展開してきたが、社会福祉法の改正や東三河広域連合による介護保険事業のスタート、地域包括ケアの強化など法人を取り巻く環境も大きく変化しつつある。法人の進むべき方向を検討するにあたり、現状の課題を以下のとおり整理する。

- 1 利用者や地域住民に評価される質の高いサービスを提供すること
- 2 社会の変化に対応できる組織をつくること
- 3 経営基盤の安定に向けた取組みを行うこと
- 4 サービス向上を支える人材を育成すること
- 5 地域社会との連携をさらに強化すること

## 第6 中長期経営ビジョンの5本の柱

当法人の歩んできた経緯、地域社会での法人の役割、現状の課題などを踏まえて、以下のとおり中長期経営ビジョンを作成し、今後10年間の進むべき方向性と具体的な実施項目を定める。

### 1 進むべき方向性

- み** 魅力ある利用者サービスを提供します
- た** 絶えず進化する組織をつくります
- け** 健全な経営基盤をつくります
- か** 確実な人材の確保と育成に取り組みます
- い** いつも地域社会と連携します

## 2 具体的な実施項目

### み

#### 魅力ある利用者サービスを提供します

##### 1) 利用者本位のサービス提供

- ・利用者満足度調査や個別面談、家族会などを実施し定期的な調査、分析、評価を行い、サービスの向上をめざします。
- ・サービスの標準化を実現するとともに専門的で新しい介護技術を習得します。
- ・最新の知見を取り入れた認知症ケアを体系化します。

##### 2) 介護サービスの質の確保

- ・専門性の高い研修受講や介護福祉士などの資格取得を積極的に支援します。
- ・手順書やケース記録を整備し、職員間で情報共有できるシステムを確立します。

##### 3) 新たな事業への展開

- ・法人の現在と未来を考える機会を設け、活動収益10億円を目指し新たなサービスの開発に向けた研究活動を促進させます。
- ・介護保険制度の見直しや東三河広域連合の動きを的確に捉え、時代に対応したサービスを展開します。

### た

#### 絶えず進化する組織をつくります

##### 1) 魅力ある組織づくり

- ・利用者や働きたい人から選ばれるみそのブランドを確立します。
- ・業務改善提案制度を活用し常に業務改善できる組織づくりをします。

##### 2) 本部機能の充実

- ・法人本部会議を充実させ戦略的な討議を重ねるとともに確実な情報共有を進めます。
- ・法改正や制度改正に迅速に対応できるよう情報収集力を高め、法人の現状分析と将来ビジョンを検討します。
- ・常に各事業所の状況を把握し業務支援体制を整えます。

##### 3) 広報活動の充実

- ・インターネットを活用した迅速かつ適切な広報体制をつくります。
- ・マスコミを活用した広報活動を実施します。

## け 健全な経営基盤をつくります

### 1) 取り巻く環境と経営状況の把握

- ・事業を取り巻く環境や制度の動向を把握し職員に周知する仕組みをつくりま
- す。
- ・各種会議に積極的に職員を出席させ情報の収集を図ります。

### 2) 収入と支出状況の把握と管理

- ・事業所の定員や稼働状況を常に分析し、適正な収入確保に向けた取組みを実
- 施します。
- ・コスト意識を高め経費削減に向けた対策を作成し、法人全体が一体となった
- 取組みを行います。
- ・滞納発生時に遅滞なく対応できるシステムを構築します。

### 3) 目標を明確にした健全経営の徹底

- ・人件費率や目標収支差額を明確化します。
- ・経営的視点から組織目標を作成し実現に向けてチャレンジします。

## か 確実な人材の確保と育成に取り組みます

### 1) 人材確保に向けた環境整備

- ・離職防止に努め定時採用計画を充実させます。
- ・施設見学の機会を増強し人材確保に繋がります。
- ・大学、専門学校、高校との連携を強化します。

### 2) 人材育成のための環境整備

- ・人材育成システムをブラッシュアップします。
- ・明確で妥当なキャリアパスを構築します。
- ・総合的な人事評価制度を構築します。

### 3) 法人帰属意識の醸成

- ・休暇制度や健康管理、メンタルヘルス対策などを充実させ働きやすい職場環
- 境づくりをめざします。
- ・法人の存在価値を高めることで職員の意識を向上させます。
- ・モチベーションアップに向けた勤続表彰制度を整備します。



## 1) 高齢者を支える事業の実施

- 地域包括ケアシステムを推進し在宅事業の充実を図ります。
- 認知症カフェの充実や認知症サポーターの養成を図ります。
- 高齢者介護や介護予防に関する講座やセミナーを開催します。

## 2) 機能やマンパワーの地域への提供

- 地域で開催される行事へ積極的に協力し参加します。
- 作品展や夏祭りなどを開催し地域との交流や連携を強化します。

## 3) 地域の防災拠点としての機能整備

- 福祉避難所としての機能強化をはかり運営マニュアルを整備します。
- 緊急災害時における地域と施設間の安全協力体制を整備します。
- 災害時の地域高齢者世帯への支援体制を整備します。

